１　主　題（テーマ）

　「ICTを活用した授業をしよう！」の主語はだれ？

　　　　　　　～半島の先端の一教師によるちっぽけな実践～

２　高校名　石川県立飯田高等学校（石川県珠洲市野々江町１－１）

３　氏　名　教諭　長谷川仁嗣

４　ねらい

　“教員が”ではなく、“生徒が”ChromeBookをはじめとする情報端末を文具的に活用するマインドとスキルを身に付ける。

５　背　景

　「総合的な探求の時間」でのより自律的な学びを実現するために、本校では昨年度から当該授業におけるスマホの利用を解禁した。ところが、普段から肌身離さず持ち歩き長時間使い倒している自分のスマホでも、学習のためとなると上手く活用できない生徒がほとんどであった。情報端末を自らが学びのために扱うことは一見簡単そうに見えるものの、一筋縄ではいかない。この課題をわずかばかりでも乗り越えるため、今回の授業実践を行うに至った。

６　対　象　高校１年普通科　６７名（男子２４名、女子４３名）ほか

７　授　業　「社会と情報」（２単位）ほか

８　実　践

（１）「社会と情報」（１年）での実践

　①毎時間１人１台のChromeBookを用意し学習を進める。

　②１学期初めに、Google Workspace for Educationの数々のアプリケーション（ドライブ、Classroom、ドキュメント、スプレッドシート、スライド、jamboard、Meet、Formsなど）の使い方について、実践を交えながら紹介する時間を数時間設定する。

　③上記②をヒントにして、生徒たちはあらかじめ教師から示された学習範囲の内容について、自分自身で学び方を考え選択し学習を進めるように促す。

　④生徒たちが相互に学びの進捗状況を確認できるよう、専用のスプレッドシートを作成し共有する。

（２）「日本史Ｂ」（２年）での実践

　①一方通行的な学びに陥りやすい講義型の授業にインタラクティブさをもたらすため、情報共有アプリPadlet（パドレット）を活用する。

　②探求型の授業における情報収集や学びの記録のためにChromeBookを用い、Google Workspace for Educationのアプリを活用する。

11

９　成果と課題

（１）成果

　①毎時間１人１台のChromeBookを用意して授業に臨むことにより、自分のアカウント名およびパスワードの定着やログイン／ログアウトの操作などを全生徒がスムーズに行うことができようになり、情報端末を学びのために活用する前提条件を整えることができた。

　②Google Workspace for Educationのアプリについて学ぶ演習を通して、生徒はそれぞれのアプリの具体的な機能や使い道を知ることができた。それにより、ChromeBookをはじめとする情報端末を自らの意思で使いこなすことは、単なる遊びや暇つぶしのためでなく、学びのためにも有効であるという意識を生徒に持たせることができたように感じる。

　③さまざまなオンラインアプリを活用しどのように教科書の内容を学んでいくかについて、生徒に主体的に考えさせながら授業を進めた結果、教員主導の従来型の授業に比すればいくぶん学び方が多様化した。

　　〈学び方の具体例〉

　　・生徒Ａ：手書きのノートではなく、Googleドキュメントを使用し、教科書や準拠ワークの内容を整理する。同時編集機能も活用し、友人と協働して作業を進める。

　　・生徒Ｂ：Formsを活用し、選択問題や記述式の問題など、さまざまなタイプの問題を作成した。作成したフォームは授業用のClassroomでリンクを共有し、多くの生徒が解答に挑戦していた。

　　・生徒Ｃ：ＮＨＫ高校講座「社会と情報」の動画を見ながら、教科書の内容の理解に努めた。

　　・生徒Ｄ：生徒Ａ～ＣのようにChromeBookを使用せず、紙のノートで教科書の内容をまとめる。使えるだけのスキルは持ちつつも自分の判断によって使わない道を選んだ。

（２）課題

　①全校生徒３１４名に対し、本校に配備されているChromeBookはわずか４０台しかなく（７月末に４０台追加予定）、BYODには程遠い。それにより、生徒が自身の判断で情報端末を使用できる時間や場面が大きく限定されてしまう。

　②教員主体の授業スタイルのままでは、生徒自身が自らの学びのために主体的に情報端　　　　　　末を活用していくことを、本当の意味で実現できない。どれだけ多くの教員が自らの授業の型を破れるかどうかにかかっていると思う。

１０　最後に

　数値的な裏付けや客観的なデータのない、主観的な見立てばかりの実践報告となってしまいましたが、ご覧いただきありがとうございました。

12